

# これまでの主な指摘事項について

# これまでの会議での主な指摘事項

分野	指摘事項
共通事項	<p>【政策体系（ロジックモデル）の精緻化に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○政策目標を明確化させた上で、それが実現できているかを測るアウトカム指標を設定することが重要であるが、政策目標からは遠いアウトカム指標がみられる。</li><li>○アウトカム指標について、場合によっては中間と最終の2層に整理して、「最終アウトカム」は政策目標が達成できたかを確認できる指標にすべき。</li><li>○その上で、施策ありきではなく、政策目標・アウトカム指標を達成するにはどんな施策（手段）が必要かを他省庁のものも含めて考えることが重要。必要に応じて他省庁とも連携すべき。</li><li>○目標に対して効果が上がっているかどうかにつき、重要な部分に焦点を当てて記載すべき。逆に施策の方は自分の省庁で実施していることに限らず広く記載すべき。</li></ul> <p>【データ利活用に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○3分野とも新しい分野とあって、用いるデータなどが具体的にない。どういう調査からどういう項目を抽出するのかをできるだけ早い段階で具体化していくべき。</li><li>○各種分析の向上に資するため、既存の基礎的・重要なデータについては公表頻度を上げる、利活用の観点から標準化を図るといった対応をすべき。</li><li>○政策効果を高めるだけでなく、分析・検証に必要なデータを集める観点でも、関係者の連携が重要。中央政府（省庁内・省庁間）だけでなく、特に地方自治体が保有している情報・データを利活用できるようにしていくことが必要。民間・アカデミアのデータも活用していくべき。</li><li>○DXなども活用しながら、統計・データをスクラップ・アンド・ビルドしていくべき。</li><li>○収集したデータに外部の人もアクセスできるようにし、透明性を確保すべき。</li></ul>

# これまでの会議での主な指摘事項

分野	指摘事項
共通事項	<p>【分析・検証方法、検証体制に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○EBPMの重要なポイントは、事前評価（想定される政策効果）に対して、事後評価（効果検証）を行うこと。エビデンスは後者を意味していることに注意。</li><li>○分析・検証において、良い結果が出たものだけでなく、失敗したもののやうまうまいかなかったものも報告する仕組みにすべき。</li><li>○検証体制については、行政官だけでは分析・検証に手が回らない、経験が不足しているということがあるので、検証事項や分析・検証方法などを適切にデザインしていくために、専門家の助言・協力を得るべき。</li><li>○効果検証には、反実仮想（当該政策がなかった場合にどうなっていたか）と現実を比較できるような実験的な状況をつくり出すのが理想。分野や政策のやり方によっては、そうした効果検証ができるものもあるので、考えていただきたい。</li><li>○経済波及効果は投資の誘発といった需要ではなく、付加価値生産性をどれだけ高められるかという点で測っていただきたい。</li><li>○各省庁の有識者会議においてすでに多くの分析・検証事例（エビデンス）が提示されていることがあるので、役割分担をすべき（参照・活用できるものはないか、整合性はとれているか、調整する必要はないかといった観点）。</li><li>○新たにエビデンスを収集するのはよいが、既存のエビデンス（過去・海外の政策がどのような効果があったのかなど）の整理も忘れずに行うべき。</li></ul> <p>【エビデンスの政策への見直しへの活用方法】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○骨太方針の策定や予算プロセスにEBPMの成果をしっかりと反映させていく仕組みにすべき。</li></ul>

# これまでの会議での主な指摘事項

分野	指摘事項
防衛生産・ 技術基盤の 維持・強化	<ul style="list-style-type: none"><li>○政策目標が抽象的で理解が難しい上に、アウトカム指標が政策目標の実現を測るものにはなっていない。</li><li>○生産基盤の強化については、サプライチェーンリスクが低減できているか、中小企業が成長しながら、防衛産業の規模が拡大しているかなどを多面的に測るアウトカム指標を設定すべき。</li><li>○技術基盤の強化については、研究開発支援が早期装備化の取組や新しい戦い方に必要な先端技術の取り込みの実現にどれだけつながったのかを客観的に測るアウトカム指標を設定すべき。</li><li>○防衛生産基盤強化には、既存のサプライチェーン（既存企業）を守るだけでなく、イノベーション（新規企業の創出を含む）を促していく取組も重要。そのためには、経済産業省など他省庁の施策との連携を考えるべきではないか。また、役に立つ事例は参考とすべきではないか（スタートアップ政策など）。</li><li>○有事を想定したサプライチェーンリスクを評価・分析する上では、サプライチェーンの「ストレステスト」を行うのが一案。あるいは、リスクを①発生確率②発生した場合の単位当たり損失③エクスポージャー、に分けてマネジメントしていくという方法もある。</li></ul>

# これまでの会議での主な指摘事項

分野	指摘事項
2050年 カーボン ニュートラルに向けた GXへの投資 (GX実現 に向けた基本方針、GX 推進戦略)	<ul style="list-style-type: none"><li>○温室効果ガスの排出削減効果について、国際ルールとの整合性も念頭に分野ごとに異なるKPI、検証方法、データ整備計画を設定すべき。ワイズ・スペンディングの観点からは、費用対効果をKPIに入れられるとよい。</li><li>○GX経済移行債による投資支援がどれくらいの民間投資を誘発したのかを中間アウトカムに入れてもよいのではないか。</li><li>○カーボンプライシングからGX経済移行債の償還財源が確保できているかを測っていく指標を検討してはどうか。</li><li>○投資の波及効果について、官民によるGX投資の金額は中間投入指標にすぎないため、実現したい社会のあり方を適切に反映するアウトカム指標を設定すべき。</li><li>○GX投資支援策がどれくらい温室効果ガスの削減に寄与したのか（あるいは支援企業と非支援企業とで排出削減にどれくらいの差が出たのか）を分析・検証できないか。</li><li>○「我が国の産業構造・社会構造の変革を通じ、……」の政策目標に対応するアウトカム指標を設定すべき。</li><li>○GX投資だけでなく、カーボンプライシングが経済全体に与える影響に関する評価を行う必要。エネルギーセクター以外の負荷を「見える化」することも重要。</li><li>○GXは、他分野と比べてデータが不足しており、データ整備の予算確保が必要。</li><li>○我が国全体のGX政策に対するグローバルな投資家の評価が反映されるGX経済移行債の利回りを参考指標としてはどうか。</li><li>○我が国全体の国際公約の達成には他省庁との連携も重要（例えば、排出削減とともに吸収を強化する観点から農水省や林野庁など）。</li></ul>

# これまでの会議での主な指摘事項

分野	指摘事項
半導体関連の国内投資促進	<ul style="list-style-type: none"><li>○半導体関連の国内投資促進策が、産業競争力の強化や経済安全保障の確保等の観点から、半導体分野の生産能力の強化や国内安定供給にどのように寄与するのかが明確となるよう、ロジックツリーを精査すべき。</li><li>○半導体は様々な種類があるため、どれがどのアウトカム・目標に寄与するのかを意識しながら、ロジックを整理すべき。</li><li>○各半導体だけでなく、製造装置など、その特徴の違いを踏まえたロジックの整理やKPIの設定をすべき。</li><li>○国内の半導体生産能力の強化が他産業のサプライチェーンリスクの低減（他国の依存度の引き下げなど）や日本の世界におけるプレゼンス（半導体シェアなど）の向上、国内のエネルギー効率の高度化に寄与しているのかを測れるアウトカム指標を設定し、効果検証を行っていくべき。</li><li>○支援企業にはEBPMに資するデータを提出してもらうことが必要。機微情報の取扱いには注意しながら活用していくべき。</li><li>○エビデンスの政策見直しへの活用において、事業計画の認定・見直し、支援継続の要否の判断は難しいため、実効性があるものにしてほしい。</li><li>○半導体だけで海外と戦っていくのは容易ではないので、日本の強みである電子部品メーカーとの協力を後押ししていくべき。</li><li>○日本だけでは半導体人材の育成が難しいと思われるので、海外のトップメーカーの協力が得られるような仕組みづくりをしていくべき。</li></ul>